

主体とする三期は前二世紀とほぼ定めることが出来るよう。

この年代と古文獻とから、これらの墓葬を築いた民族は、一・二期は東胡族をあてゐるのが無理があるまい。このほか遼寧省の東北部、西豊県西岔溝より、いわゆる触角式の劍把頭をもった特殊な文化内容の墓葬群が発見され、匈奴か烏桓かの論争がある。日本の唐津柏崎出土劍はこれと連がるもので、前二世紀末から前一世紀半ばにかけてのこの文化は様々の点で非東胡系でむしろ匈奴系となし得よう。

最近朝鮮の学者は遼東半島出土の、私のいう二期を含めて、細形銅劍への発展系列として「古朝鮮」に一括しようとしている。しかし、一・二期の間は銅劍の系譜はもとより、文化内容においても一連の繼承關係があるが、これに対して三期は様々の点で異なっている。即ち、一・二期が牧畜を主とし農耕を従とした文化内容で、むしろオールドスと關係が求められるのに対し、三期では農耕を主とし、墓の構造、遺物の内容も一・二期とはかなり異なっている。墓葬の面ではむしろⅣ式劍を出す遺址と連がりがある。そうした遺址は旅順尹家村では一・二期と重なってあったというが、今後、松

遼平原周辺の山岳部における同種遺址の調査によつて三期を含めた「古朝鮮」文化の様相がより明らかとなるのではなからうか。

(なお本稿は近く『考古学雑誌』に發表する予定である)。

平城宮跡保存に関する要望書

平城宮跡の保存に関し、次の通りの要望書を建設大臣・文部大臣・文化財保護委員會に對し提出した。

平城宮跡保存に関する要望書

特別史跡平城宮跡東側、東一坊大路推定地を通過することに計画された国道二十四号線バイパスは、事前の發掘調査によつて、予定路線上より予期せざる重要な遺構が出土し、その結果平城宮城が從來推定されたよりさらに東に拡がっているらしいという歴史的に非常に重要な事実が明らかにされた。従つて關係当局はこの新しい事実に立脚し、この際英断をもつて当初の計画を変更するとともにさらに所要の調査を継続し、平城宮跡の完全な保存に万全を期せられるようたくに要望する。

昭和四十二年十一月二十一日

史学研究會
理事長 小葉田 淳

学界消息

読史會

昭和四十二年五月例会 五月十三日(土)午後一時

時

於 京都大学文学部

第一次山本内閣について

春季大会

六月十八日(日)午前九時より

於 京都大学文学部

大嘗祭の一考察

蘇我石川麻呂大臣自殺事件について

日本書紀の用語法の一考察

天平改元について

長徳四年戸籍断簡について

平家物語の唱導性

備後國山内氏における領主制の發展

明治初期堺及びその周辺の小学校教育

本願寺の茶の湯——藪内家との關係——

彦龍周與と惺窩

七月例会 七月八日(土)午後一時より

於 京都大学東友會館

戊辰戦争期における草莽語彙

——世直し一揆との関連において——

——世直し一揆との関連において——

九月例会 九月九日(土) 午後一時より
中島三千男

於 京都大学楽友会館
九州地方史入門——秋季見学旅行のために——

赤松 優秀・上横手雅敬

大山 喬平・小葉田 淳

稲本 紀昭・朝尾 直弘

秋季大会 十一月四日(土) 午前九時より

於 京都大学文学部

古代貴族の国際意識について 上田 正昭

高市岡本宮址について——書紀の飛鳥岡本宮 志賀 剛

は誤りか——

中世地方社寺領に関する二・三の問題 工藤 敬一

播磨国大部庄の農民 小西 瑞恵

中世後期の惣について 中西 則雄

中世荘園経済の経営学 石沢 徹

信長政権の性格について 脇田 修

「夢の代」の成立と流布 末中 哲夫

いわる「洋学の権力隷属化」について 山崎 彰

——大槻玄沢を中心に——

上古に於ける日鮮文物の交流(スライド使用) 梅原 末治

十二月例会 十二月九日(土) 午後一時より

於 京都大学楽友会館

中江兆民について レトキ・クリスチナ

東洋史談話会 昭和四十二年度大会

十一月四日(土) 午前九時より

於 京都大学法経第七講義室

徐陵をめぐる南北朝関係 吉川 忠夫

日出処天子と日没処天子 増村 宏

宣南詩社の人々 田中 正美

清末に於ける婦人解放の思想と運動

朝鮮三・一独立運動について 小野 和子

古代インドの村落について 北山 康夫

回鶻文斌通(善斌) 売身契三種 岩本 裕

遼朝陽廳(宗正) 攷 山田 信夫

唐代城邑の都市の発展 島田 正郎

中国古代都市 日野開三郎

貝塚 茂樹

西洋史読書会

例会 於 京大西洋史研究室

昭和四二年六月一日(土)

歴史のプロセスについて 谷 泰

六月一七日(土)

シュメールとビュロス——乾燥地帯における デスパティズムの類型—— 前川 和也

六月二十四日(土)

史学史の現代的課題 前川貞次郎

七月八日(土)

ジョン・ロック——道徳哲学における「自由」の問題—— 永岡 薫

九月二三日(土)

現代イギリス史学の見取図 越智 武臣

九月三〇日(土)

エンゲルスと独立労働党の成立 中山 章

一〇月一四日(土)

領邦国家と幕藩体制を比較して 中村賢二郎

一〇月二一日(土)

従土団叙詩の英雄スヴァトスラフ 国本 哲男

一〇月二八日(土)

ブルジョワ革命とプチ・ブル運動 岡本 明

第三五回秋季大会

十一月四日(土) 於京大文学部第一講義室

シュメール都市国家成立期のアッシリア 川村 喜一

初期フランススコの形態に関する一考察 坂口 昂吉

ビスマルクにおけるレアル・ポリティク 望田 幸男

16世紀初頭フイレンツェの歴史意識の推移 永井 三明

エビタフイオス 永井 康視

内乱のハル——イギリス革命の一齣 越智 武臣

D・ヒュームにおける租税思想と国家 山内 峰行

一八一五年から一八四八年までのドイツ連邦 秋山 博愛

アフガニニー(一八三八〜九七)の宗教不信 とイスラーム擁護のイデオロギー 市川承八郎

對外政策の優位 岡部 健彦

ゲルゼンキルヘン事件に関する一考察

—FREDERICK FLICK と國家の結び

つきを中心として—— 古川 栄輔

十一月八日(土)

ヘレニズム世界におけるギリシア人とオリエン

ント人

大戸 千之

二月九日(土)

第二次大戦前史の研究動向の一端 野田 宣雄

人文地理学会

第七十一回例会 昭和四十二年四月十五日(土)

於 京都大学文学部第一講義室

郷と式内社

武藤 直

農業立地論についての一、二の問題

山名 伸作

第七十二回例会(広島地理学会と共催)

昭和四十二年六月十日(土)、十一日(日)

於 広島大学文学部大講義室

漁港の勢力変動

土井 仙吉

ヨーロッパについて(スライド使用)

水津 一朗

太田川流域の地域変貌——とくに人口流動を中心として——

船越 謙策

〈エクスカリョン〉

(案内者) 米倉二郎・藤原健蔵・赤木祥彦・北川建次

(コース)

↓音戸大橋↓広島駅

第七十三回例会 九月九日(土)

於 立命館大学産業社会学部

萩藩領における年貢米輸送

京都市の都市圏 須原英士雄

人文地理学会大会 十一月四日(土)〜七日

(火)

於 京都大学文学部・法学部・経済学部

〈一般研究発表〉

商業的農業と農村人口流出との関係について

——萩市を中心とした山口県長北地域について——

合—— 新宅 暢久

飛騨山地養蚕村の労働力構造

百姓機屋地域の再形成 大迫 輝通

山口県のハマチ養殖漁村 斎藤 晃吉

筑後国生葉郡・竹野郡・山本郡・御井郡(筑後川左岸)の条里と筑後国府 新宅 勇

府県域の研究 第3報——府県域確定までの

考察—— 日野 尚志

世界各地の定期市——都市発達史又は都市立

地論におけるその位置づけ—— 石原 潤

十六〜十七世紀の中国におけるトウモロコシ

の分布について 千葉 徳爾

台湾東部の開発過程 渡辺 操

田園都市から急速に工業都市化した鈴鹿市

前田 和夫

阪神工業地帯における生産力地域構造分析の

方法 菊地 一郎

阪神の工業——京浜との対比において

板倉 勝高・井出 策夫

竹内 淳彦・高橋潤二郎

千曲川沿岸地域の工業化について 斎藤 幸男

名阪国道

村松 繁樹

農産物の加工・流通と都市網——北海道にお

ける馬鈴薯澱粉工業を指標として——

寺阪 昭信

中心集落とエリアの構造

〈特別研究発表〉

都市の成長と構造変化

わが国における商圏の研究 小森 星児

工業立地における消費地の意義 沢田 清

ニュージーランド・ノースランドのマリオ農

業 土井喜久一

北西ドイツ農業の地理学的研究における諸問

題——とくに土地利用と経営規模を中心

に—— 石田 寛

パダナ平原農村の社会地理学——集落の形成

と農業革命—— 浮田 典良

〈エクスカリョン〉十一月六日(月)七日(火)

(Aコース) 丹後半島方面 竹内 啓一

(Bコース) 天理・伊賀方面

第七十四回例会(兵庫地理学会と共催)

十二月九日(土)

於 関西学院大学文学部 第一別館三号教室

食生活環境の体系的改善とその問題点

石光 享

パラワン島山地住民の生活(スライド使用)

大島 襄二

日本考古学協会 昭和四十二年度大会

十月二十八日〜三十日 於 関西大学

大分県岩戸の旧石器時代遺跡	芹沢 長介
押型文土器伴出の礫器	鈴木 重治
山梨県塩山市柳田遺跡の調査	上名川 昭
青森県久栗坂山野峠遺跡における縄文後期 初頭の組合石棺を伴う積石塚について	麻生 優
安行系粗製土器における文様施文の順位と工 程	江坂 輝弥・村越 潔
福島県南御山遺跡における最近の調査	鈴木 公雄
静岡県韮山町山木遺跡第二次発掘調査	杉原 莊介
愛知県豊田市高橋遺跡の調査	八幡 一郎・斎藤 宏
大阪府豊中市勝部遺跡の調査	久永 春男
藤井 直正・江谷 寛・瀬川 芳則	斎藤 嘉彦
前方後円墳兆域地割の方形化とその背景	萩田 昭次
天理市布留遺跡出土品の整理(1)	上田 宏範
白木原和美・置田 雅昭	近江 昌司
越中国宮崎浜山の硬玉工房址	大場 磐雄
寺村 光晴・竹内 俊一	
茨城県新治郡玉里村舟塚古墳第2次第3次発 掘調査の報告	大塚 初重・小林 三郎
茨城県那珂郡東海村須和間前原所在古墳群の 発掘調査	大森 信英・関根 忠邦
高根 信和・茂木 雅博	
茨城県岩瀬町狐塚古墳調査概要	西宮 一男

大森 信英・高根 信和・茂木 雅博	
昭和41年度藤原宮跡の調査	伊達 宗泰
昭和42年度平城宮跡調査概要	町田 章
下野国分尼寺跡の発掘について	大和久震平
京都市極原院寺の発掘調査	佐藤 興治
奈良市大安寺出土の唐三彩	堤 圭三郎
那須郡銚跡一次調査について	小島 俊次
大川 清・三木 文雄	八賀 晋
愛知県半田市椎之木古窯址群	大和久震平
秋田城外墨烽跡——秋田県南秋田郡昭和町	杉崎 章
豊川羽白目遺跡の調査	立松 宏
山口県豊浦町磯上の水晶石器	加藤 幸
山口県豊浦町磯上の水晶石器	門間 光夫
山口県豊浦町磯上の水晶石器	小野 忠熙
響灘沿岸の弥生文化	国分 直一
古墳の始りと終り	末永 雅雄